

<第20回調査>

2011年1月27日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年1月18日(火)13:00~2011年1月25日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、2625件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

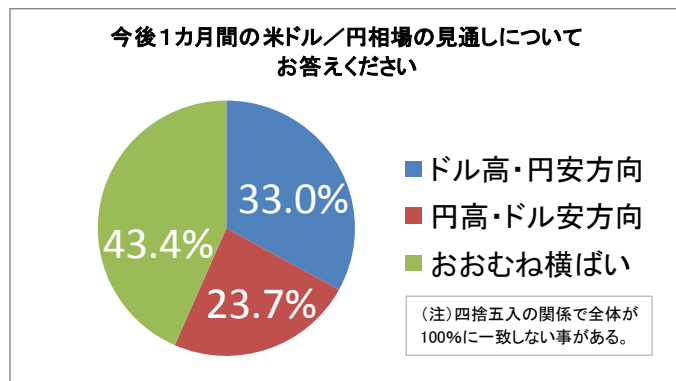
Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第20回調査結果略報：ドル高・円安予想が2カ月連続で大きく後退】

問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

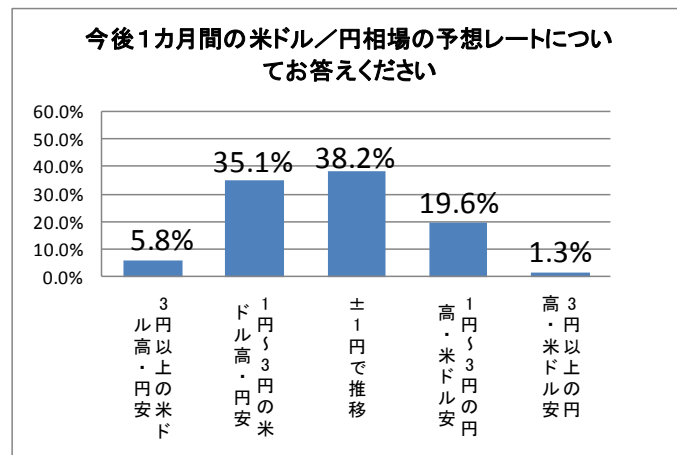
「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が33.0%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が23.7%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+9.3%ポイントとなった。前回調査の+23.7%ポイントに続きドル高・円安方向となったものの、DIのプラス幅は2ヶ月連続で大きく縮小している。調査期間中のドル円相場は概ね82円台で推移したが、対ユーロを中心にドル売りが強まった影響もあり、82円台後半から83円台では上値が重い展開が続いた。じりじりと上値を切り下げる様子に、FX投資家のドルに対する強気な見通しは勢いを失いつつあるようだが、今後一カ月間については一気に円高予想にシフトするのではなく、一旦は「おおむね横ばい」というもみ合い相場を予想する声が多数となっている。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が38.2%と最も多く、次いで「1円～3円の米ドル高・円安」が35.1%、「1円～3円の円高・米ドル安」が19.6%、「3円以上の米ドル高・円安」が5.8%、「3円以上の円高・米ドル安」が1.3%の順になった。ヒストグラムの形状は、ややドル高・円安方向に傾いており、問1でドル高・円安方向を予想する向きが、ドル安・円高予想を上回った結果と整合的と言える。また、「±1円で推移」と答えた割合が最も高い事も、問1で「おおむね横ばい」と答えた割合が最も高かった結果と整合的であった。

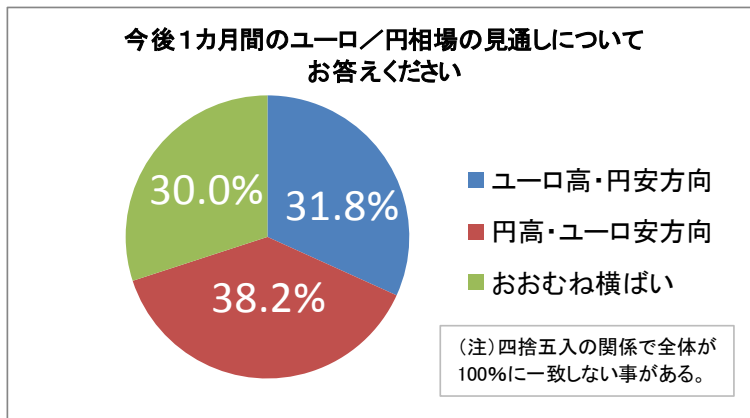


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

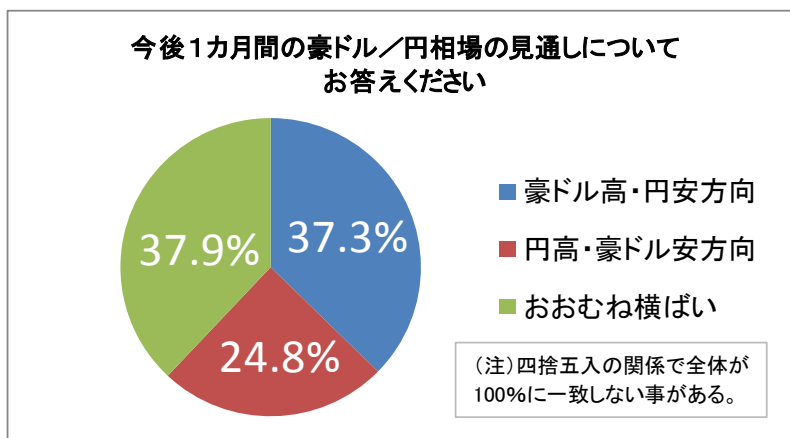
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が31.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が38.2%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲6.4%ポイントとなり、4か月連続での円高・ユーロ安予想となったが、マイナス幅は前回調査の▲29.5%ポイントから大きく縮小した。調査期間中のユーロ円相場は債務懸念の緩和や欧州中銀(ECB)による早期利上げ観測を背景に、109円台から112円台に上昇したものの、FX投資家のユーロに対する弱気姿勢を払拭させるまでには至らなかったようだ。
 ※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が37.3%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が24.8%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+12.5%ポイントと、5か月連続で豪ドル高・円安方向となったものの、プラス幅は前回調査の+26.6%ポイントから半減した。調査期間中の豪ドル円相場は82円を挟んでおおむね上下50銭程度の比較的狭いレンジで推移したが、豪州北東部を襲った洪水被害や豪州国内のインフレ鈍化などを受けて、利上げ再開観測が後退している事から、FX投資家層の豪ドル強気の姿勢はやや後退しているようだ。
 ※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

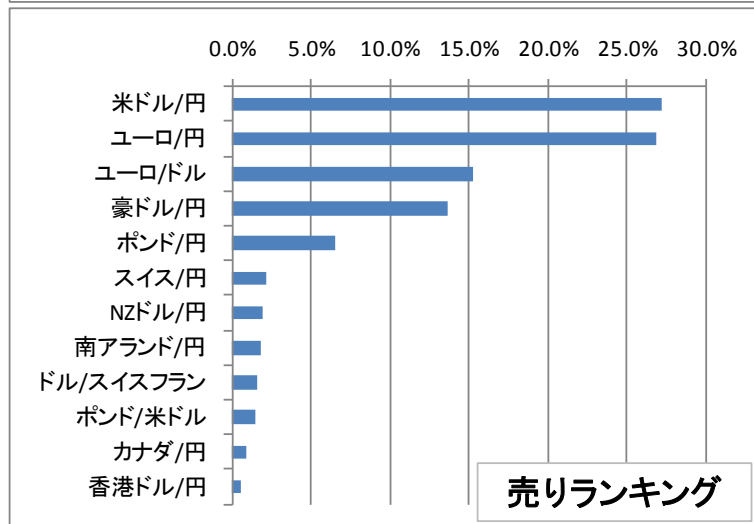
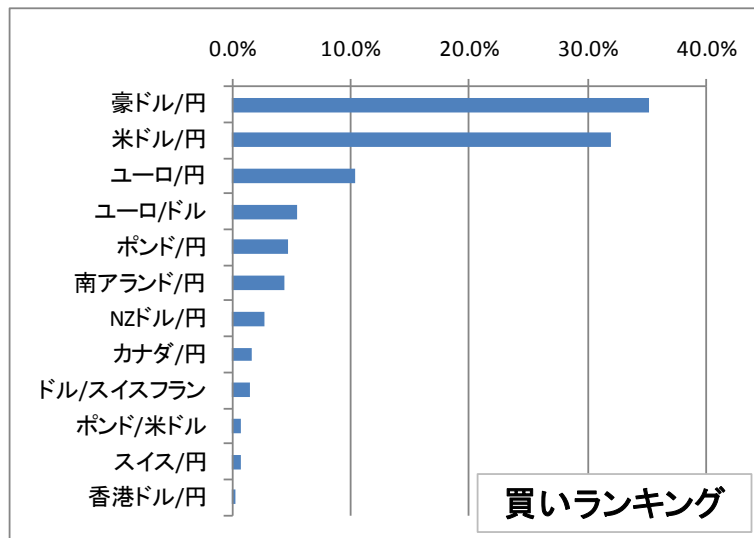


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(35.2%)、2位ドル円(31.9%)、3位ユーロ円(10.4%)、4位ユーロドル(5.5%)、5位はポンド円(4.8%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(27.2%)、2位ユーロ円(26.8%)、3位ユーロドル(15.3%)、4位豪ドル円(13.7%)、5位ポンド円(6.5%)となった。「買い」で注目の通貨ペアは、前回調査から順位に変動はなかった。また、第1回調査以来、豪ドル円とドル円が1位と2位を占める結果が続いており、この上位2通貨ペアの合計回答割合は、ほぼ毎回60%超に達し、70%を超える事もしばしばである。ドル円と豪ドル円は「売り」で注目の通貨ペアでもそれぞれ1位と4位にランクインしており、FX投資家の豪ドル円とドル円に対する関心の高さを物語っている。

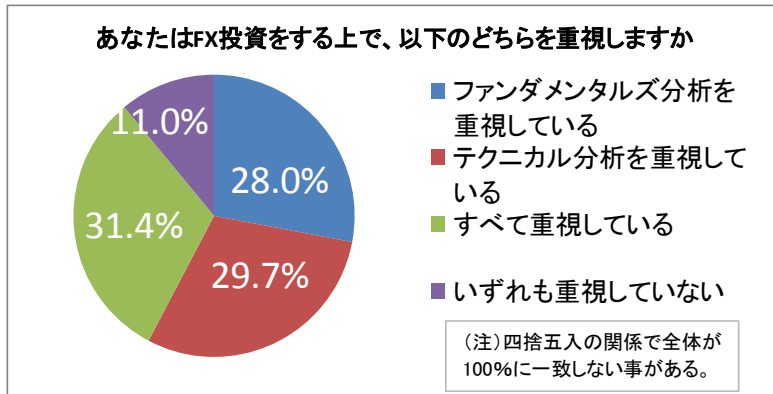


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

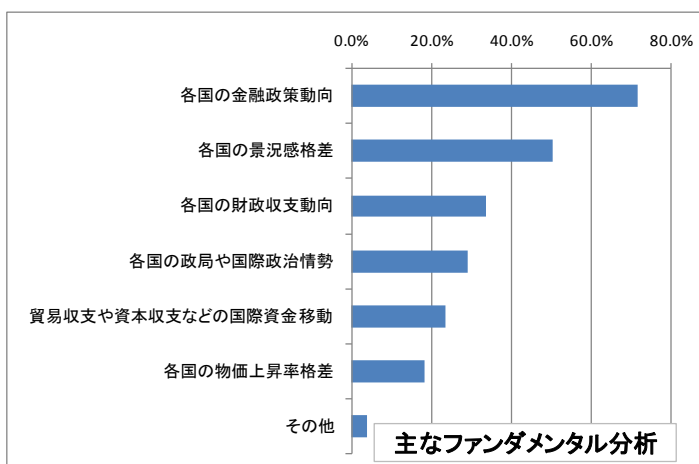
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が28.0%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が29.7%と、ほぼ拮抗する結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が31.4%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」が11.0%であった。調査開始以来、回答割合に顕著な変化は見られず、FX投資家の分析手法に対するスタンスはほぼ確立されていると言って良さそうだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(71.8%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(50.5%)」、「各国の財政収支動向(33.6%)」、「各国の政局や国際政治情勢(29.1%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(23.5%)」の順に続いた。順位は前回調査と同じであり、回答割合についても、前回調査とほぼ同様の結果となった。ファンダメンタルズ分析で活用する相場変動要因を質問項目に加えて、今回でちょうど1年になるが、「金融政策動向」や「景況感格差」といった基本的な要因に注目するFX投資家が多数を占める傾向に変化は見られない。

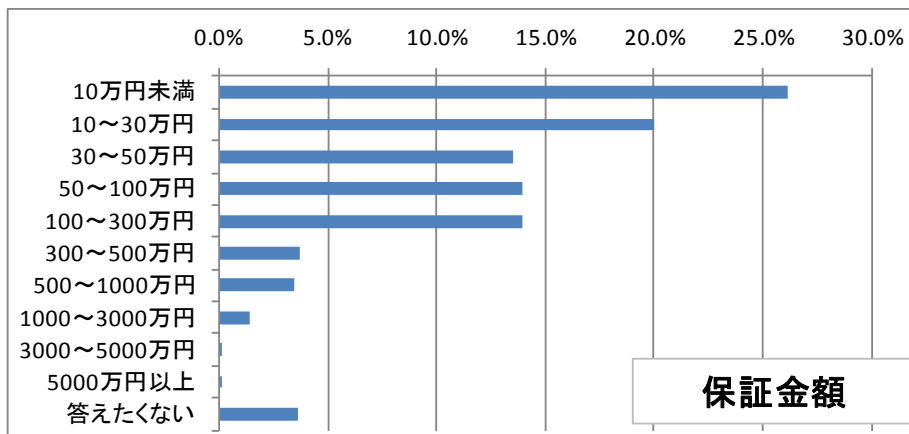


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

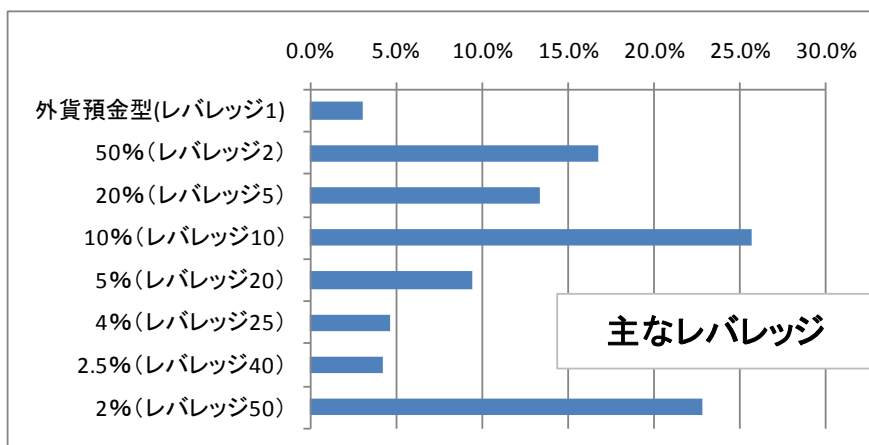
問8:FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が26.1%と最も多かった。以下、「10～30万円(20.0%)」、「50～100万円(13.9%)」、「100～300万円(13.9%)」、「30～50万円(13.5%)」となった。一方、保証金1000万円以上と答えた合算割合は1.8%にとどまるなど、小額の保証金で取引を行うFX投資家が多数を占める傾向に調査開始以来大きな変化は見られない。



問9:FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「10%(レバレッジ10)」と答えた割合が25.7%と最も多く、以下、「2%(レバレッジ50)」が22.8%、「50%(レバレッジ2)」が16.8%、「20%(レバレッジ5)」が13.3%、「5%(レバレッジ20)」が9.4%と続き、順位も回答割合も前回調査とほぼ同じ結果となった。問8の回答で、10万円未満の保証金と答えた割合が最も高く、この傾向にも調査開始以来大きな変化がない事と重ね合わせると、保証金10万円未満×レバレッジ10倍＝取引金額100万円未満という平均的なFX投資家の姿が浮かび上がってくる。為替市場におけるFX投資家の存在感は無視できないほど大きくなっているが、個々のFX個人投資家の平均的な投資規模はそれほど大きくないのかもしれない。

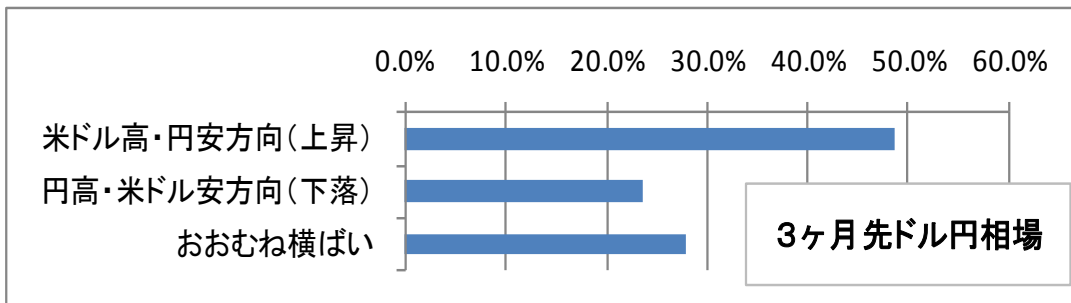


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

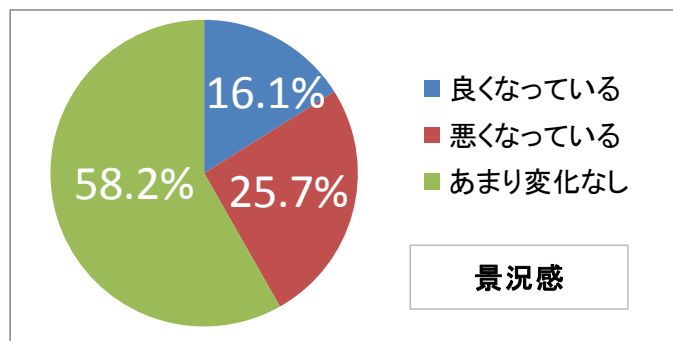
問10: 今後3カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「今後3カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「ドル高・円安方向」と答えた割合が48.6%と最も多く、次いで「おおむね横ばい」が27.8%、「円高・ドル安方向」が23.6%と続いた。問1で、今後1カ月間の見通しについて尋ねた結果と比較すると、ドル高・円安を予想する向きが1カ月間では33.0%であったのに対し、3カ月間では48.6%と増加している。問1では「おおむね横ばい」との予想が最多となっていた事と考え合わせると、ドル円相場は、足元ではもみ合いが続くものの、中期的には上昇に向かうというのがFX投資家の平均的な予想のようだ。また、予想の理由を自由記述形式で回答してもらったところ、ドル高予想の理由としては「米国経済の回復基調」を挙げる声が多かった。一方、円高予想の理由としては「中国人民幣の上昇につれ高」や、「決算期末の3月に向けて本邦企業のリパトリ活発化」などがあげられていた。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

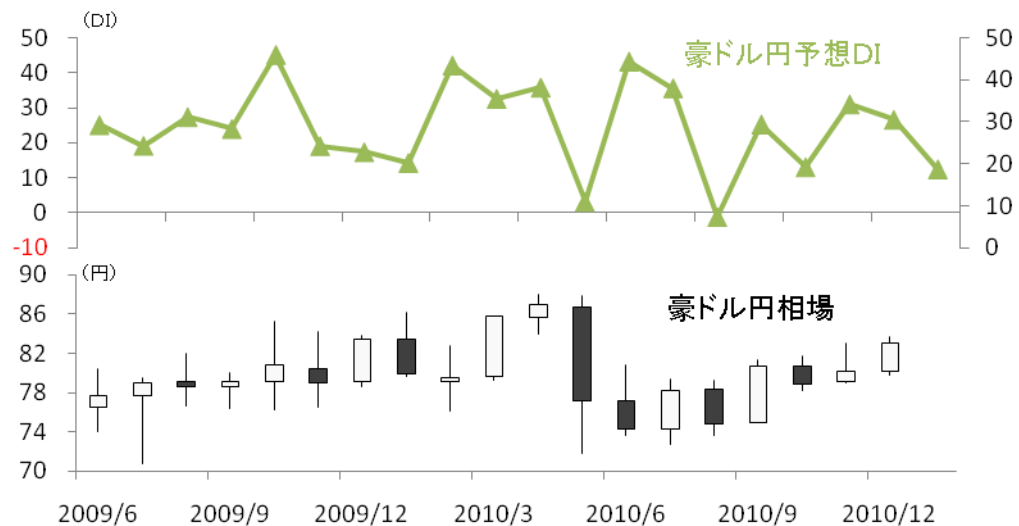
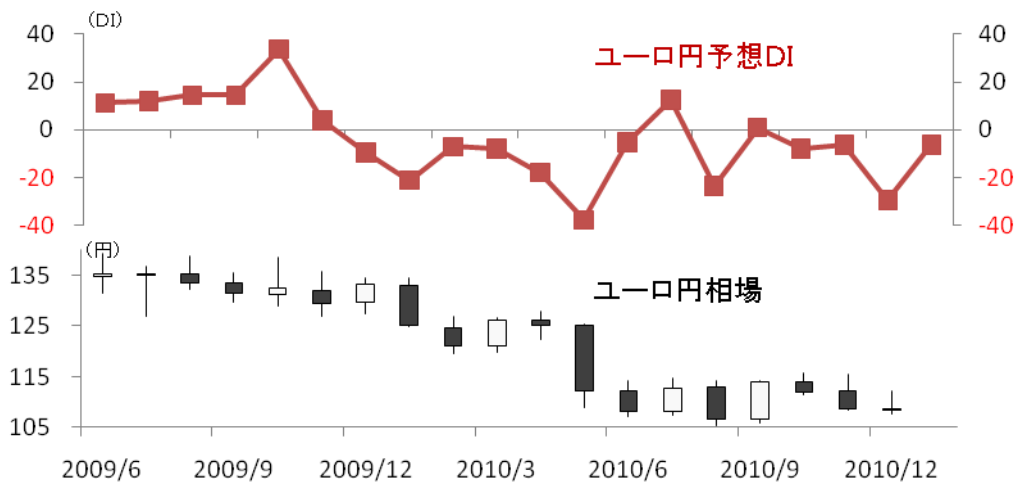
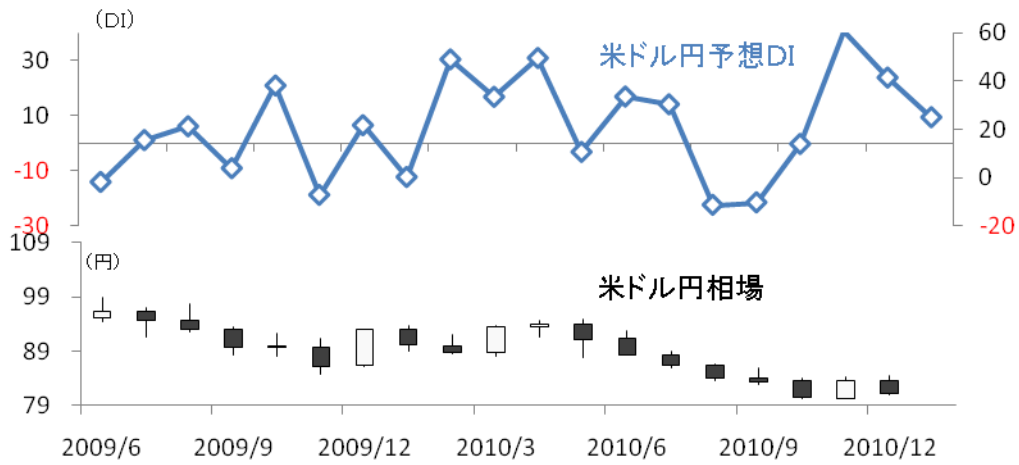
今月のもう一つの特別質問項目として「あなた個人の景況感はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「あまり変化なし」が58.2%と過半数を占め、次いで「悪くなっている」が25.7%、「良くなっている」は16.1%という結果になった。昨年10月に行った第17回調査で同じ質問をした際の回答割合は「あまり変化なし」が47.5%、「悪くなっている」が45.5%、「良くなっている」が7.0%であった。「悪くなっている」が大きく減少した一方で、「良くなっている」が増加しており、この3カ月間でFX投資家の景況感は大きく改善した格好だ。この間に、ドル円相場がやや円安方向に振れ、日経平均株価が約1000円上昇した事が景況感改善の一因となったのかもしれない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第20回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、開始後1年半以上が経過し、前年同期との比較も徐々に可能になってきましたが、まだ充分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月									
	3月									

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com